

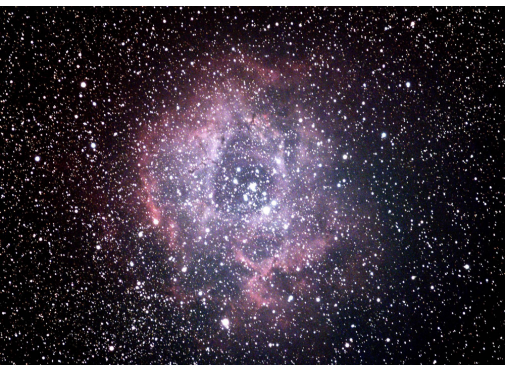
魔女に託す(5)

魔女は、広大な天の川銀河を周縁部から中心部方面へ光速で数万年かけた旅をしている。

暗黒に眼が慣れ、視界が開られて来ると、まばゆいガスを伴った星の集団が至るところにあった。

青白く乱れた星雲・淡黄色のまばゆい星雲・ぼんやりした白い星雲・不気味な淡紅色の星雲・ベージュ系の星雲・・・見晴るかす視野に大小さまざまに点在し、それぞれに、無数の恒星が宿って光を放つ。
(Hitanaka氏撮影画像を借用)

世界の天文学者が、宇宙の色は総じてベージュ色に近いとされているそうだが、つまり淡い藍系や淡い黄色系、白色系や淡紅色系(すべて透明)を混ぜて全天に多く広げれば、ベージュ系に近くなるということだろうか？魔女は、そう理解した。



地球から光速で四年余、太陽系に最も近い(太陽の次に地球に近い)恒星、プロキシマ・ケンタウリを目の前にした。

宇宙で最も多いタイプの恒星で、低温で赤黒く、太陽の直径の約七分の一の赤色矮星。現在は四十億歳以上と云われ、長命で一兆年以上輝き続けるとも云われている。なお、晩年には青色矮星になるだろうという。地球からは十一等星で肉眼では見えない。

そして、それを取り巻く惑星が二〇一六年に発見され、「ハビタブルゾーン（生命生存可能領域）」に在り、表面は液体の水が存在できる程の暖かさであると、科学誌『ネイチャー』に発表された。

発見された惑星は、プロキシマ b（ビー）と呼ばれ、地球の三倍ほどの質量で地球に似た星という。公転軌道の軸となる星（地球なら太陽にあたる）プロキシマ・ケンタウリを十一日ほどで周遊する。

しかし、恒星から頻繁に放出される強力な放射線やフレア（爆発）の影響で大気が失われる恐れがあつて、残念ながら生命の存在は不確定されている。

なお、同じ星座（夜空の星の住所にあたる）に在る^α（アルファ）星は、昔からSF作家のインスピレーションをかき立ててきた。人類が星空間に初めて飛び出す際の目的地になると予想され、遠い未来に太陽が死期を迎えて地球が亡びるときには人類の移住先になるとも考えられている。地球に近いということもあつて、しばしば恒星間航行の目的地として挙げられる。

※アニメの「機動戦士Vガンダム・外伝で宇宙に旅立った一行の報告に「恒星航行用宇宙船ダンディ・ライオンでプロキシマ・ケンタウリへの植民を達成する」という一文がある。

ともあれ、この近距離で生命体の可能性が生じたことは、無限に広い天体ならば！と、期待は膨らむばかりだ。

（続く）